

特別賞

特別審査委員賞

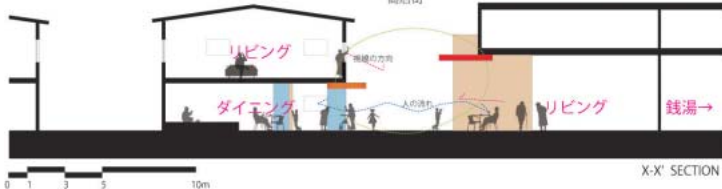
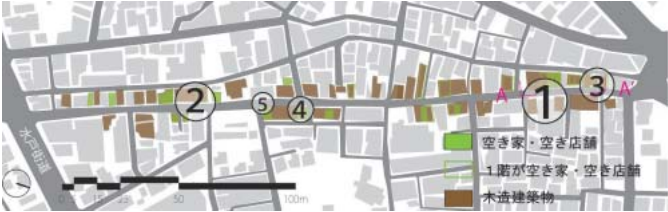


ずっと、このまち

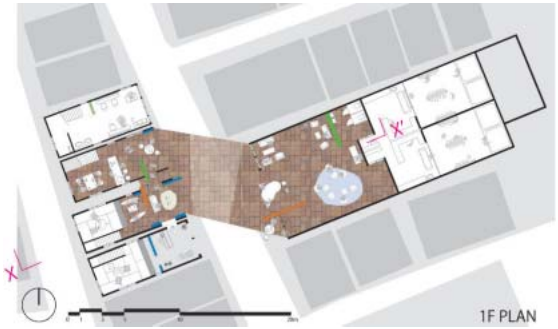
— 支え合って暮らし続けるまちなかケアの提案 —

奥迫 萌 (おくさこ めぐみ)

千葉大学 工学部 都市環境システム学科



高齢化は年々進行し介護ニーズが高まる一方、高齢者虐待や家族の共倒れなどの問題が生じている。都内では高齢者施設が不足していることから、地方にある高齢者施設へと移住しなければならず、新たな土地での生活は高齢者にとって大きな負担になっている。高齢者が住み慣れた愛着のあるまちで暮らし続けることを目的とし、「まちなかでのまちの人々によるケア」を提案する。対象地である東京都墨田区の鳩の街通り商店街は木造密集地域で空き店舗が増加している商店街である。まちに点在する建築ストックを開放し、人々の活動する空間《まちなかLDK》を作り出す。助ける人と助けを必要としている人が出会う場がまちなかに広がって行くことで、支え合って暮らすことのできるまちになる。



講評 「高齢化社会における地域介護のありかた」、「都市部におけるコミュニティ活性化」という今日我々が抱える社会的に大きな問題を解決していく糸口が、実は身近な建築にあるんだ!ということ再認識させられる提案である。「支えあって暮らしていく」という良好な居住環境を構築するために、地域コミュニティの表舞台である商店街に着目し、耐震壁・庇・床仕上げで構成する領域感の操作という最小限の建築要素でも大きな効果を得られる可能性を具現化している。建築は背景に徹し、住民ひとりひとりが街の主演となる現実性ある計画であることが高く評価された。

(審査員：関谷 和則)